Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Impact of serum adiponectin, plasminogen activator inhibitor-1, and oxidative stress levels on eosinophilic inflammation of the airway and the whole body in children with obesity

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東, 範彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032732

主 論 文 の 要 旨

Impact of serum adiponectin, plasminogen activator inhibitor-1, and oxidative stress levels on eosinophilic inflammation of the airway and the whole body in children with obesity

肥満児における血中のアディポネクチンや plasminogen activator inhibitor-1、酸化ストレスが気道及び全身の好酸球性炎症に与える影響についての検討

東京女子医科大学東医療センター小児科
（指導：大谷智子准教授）
東　範彦

Tokyo Women's Medical University Journal　advance online publication
1 頁～11 頁（2020 年 3 月 13 日発行）に掲載

【要　旨】

小児の肥満は気管支喘息の危険因子とされている。その原因としてアディポサイトカインや plasminogen activator iinhibitor-1(PAI-1)、酸化ストレスの関係が考えられている。気道の好酸球性炎症を反映する呼気性呼気中一酸化窒素濃度(FENO)及び全身の好酸球性炎症を反映する末梢血好酸球数(B-Eos)と、アディポサイトカインや PAI-1、酸化ストレスの関係について検討した。対象は 6 歳から 15 歳の小児 41 人で、FENO が 35ppb 以上の高値群と 35ppb 未満の正常群の比較では高値群でアディポネクチンは優位に低く(6.5 vs 8.1 μg/mL, p<0.02)、B-Eos は優位に高かった(343 vs 184/μL, p=0.004)。FENO が高値となるアディポネクチンの Odds 比は 0.7(95%信頼区間:0.45-1.09)であった。B-Eos はアディポネクチン(r=-0.34,p=0.03)と負の相関を、PAI-1(r=0.42,p=0.006)、malondialdehyde-modified LDL/LDL 比(r=0.33,p=0.04)と正の相関を認めた。肥満によるアディポネクチンの減少

やPAI-1の増加、酸化ストレスが好酸球性炎症と関連していると考えた。